

「日々の理科」(第3093号) 2023,-1,25 「一月大寒波とライオン池の氷(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

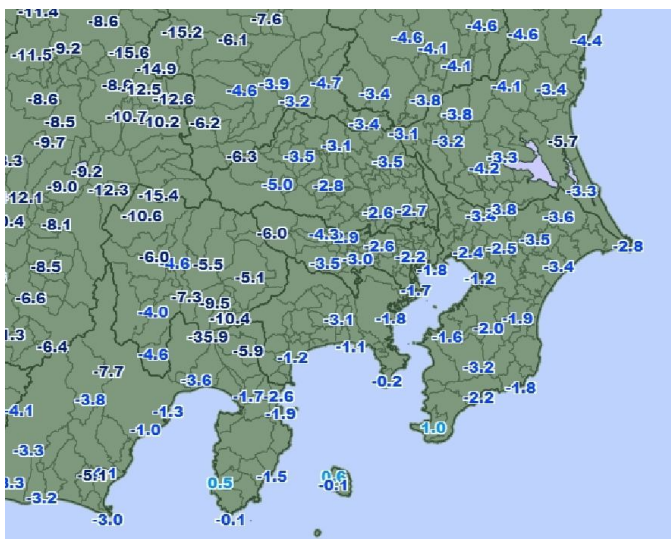
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

昨夜から今朝にかけて、「10年に一度」とも言われる大寒波が、日本列島を襲った。高速道路での立ち往生や、JR西日本列車の駅間長時間停車など、各地で大雪の被害が出ている。

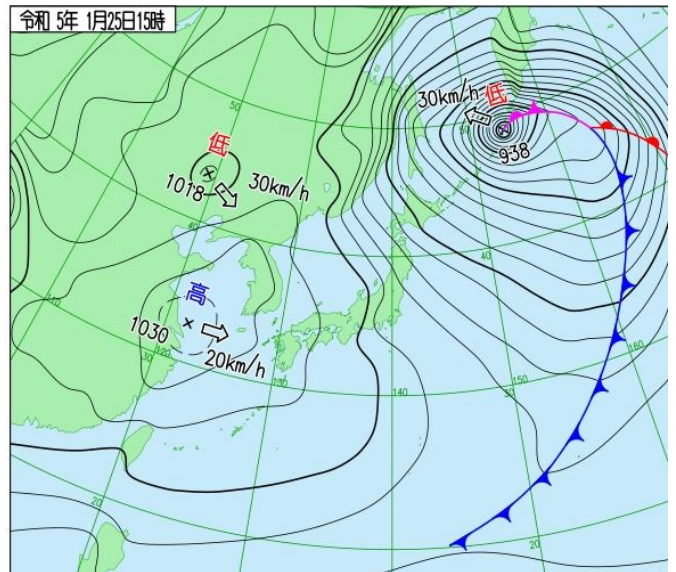


上図は、2023年1月25日午前5時の、アメダス気温分布である。沖縄や一部の観測点を除いて、北海道から九州まで氷点下の気温を記録しており、まさに「凍結列島」の状態になっている。

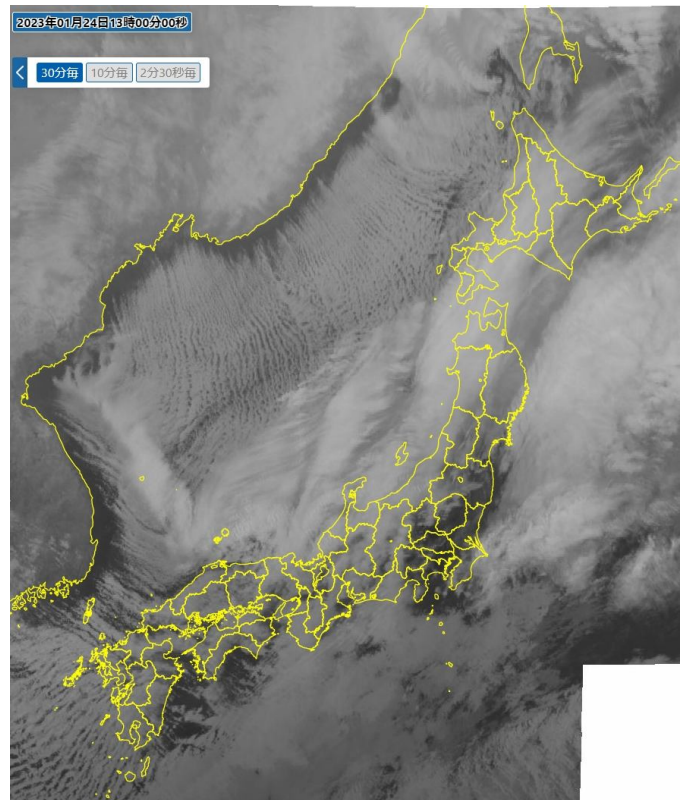


同日同時刻の関東地方の気温分布を見ても、南房

総・南伊豆・伊豆大島を除いて、すべて氷点下の表示である。群馬県の草津温泉は -15.2°C 、富士山頂は -35.9°C 、東京都内でも -2.2°C を記録している。



この寒気をもたらしたのは、千島列島付近で猛烈に発達した低気圧だ。中心気圧は938hPaと巨大台風並みだ。温暖前線、寒冷前線、それに長さ約500kmもの閉塞前線をも伴う「怪物低気圧」である。



今回の「強い冬型の気圧配置」の凄まじさは、衛星画像を見るとよくわかる。通常、日本海の「筋状の雲」は、ロシアや朝鮮半島のかかなり沖で発生するのだが、今回の寒波では、沿海州の海岸線ギリギリで、すでに雲が発生している。関東平野を除いて、ほとんど列島全体が雪雲に覆われていると言っても良いだろう。